

# GALLERY HOUSE

アートギャラリーのような家



長年にわたる中国赴任を終え、安曇野に生活拠点を移したK様。現地で集めた調度品が活きる空間、をテーマに、終の棲家を建てられました。「この家がいちばん映える時間帯」とK様が勧めてくださった夕暮れに、ギャラリーのようなお住まいを訪ねました。

## コッパくんのお宅訪問

Coppa's Home Visit

No.82



安曇野市 K様ご家族／  
60代ご夫婦 2人住まい  
竣工/H28年7月 営業/岡澤良充  
敷地面積/67.72坪 IC/松岡純子  
延床面積/36.82坪 施工/仁ともか



外から拝見すると、上品な画廊のようです！設計上のこだわりは？



自慢の品々に囲まれた空間で、お住まい心地はいかがですか。

**ご主人** 仕事で中国に赴任していたころに、趣味でいろいろな絵画や置物を集めていたんです。当時住んでいた集合住宅では折角の品々を上手く飾る空間がなかったので、新居のプランニングでは、どの絵をどこに飾ろうかと考えながら検討しました。もうひとつのこだわりは、眺めの良さ。南側に田んぼが広がる開放感が気に入って決めた土地なので、これを活かした家になりたいとお願いしました。サイズの大きい絵画を飾るには大きな壁が必要で、開放的な眺めを楽しむには壁は極力減らしたい…。**相反する2つの要望に**、スタッフの皆さんには非常に苦心していただきましたが、**どちらの条件も見事に両立した空間**になったと思います。

**ご主人** この家には、くつろぐ場所が数えきれないほどあるんです。どこにいても居心地が良く、**どこから見ても絵になる家**ですね。なかでも一番好きなのは、土間の椅子に腰かけて見上げる吹抜の眺め。吹き抜のペンダントライトは通常は一灯ですが、ありきたりだよねとコーディネーターの松岡さんに言ったところ、大小様々な三灯の組み合わせを提案してくれました。これが個性的に空間を演出してくれ、毎日でも見飽きることはありません。**空間の連続性がある**点も気に入っています。リビングから土間へ、そして庭へと、空間が緩やかにつながり淀みがない。それから、寝室と吹き抜けをつなぐ幅広の建具。昼は南側を開放して山並みを眺め、夜は北側を

開放して室内の調度品を眺めて…と、空間のつながり方に変化を持たせられる点も良いですよ。冬は薪ストーブの炎を眺める特等席で一杯。夏になったら、縁側でカエルの大合唱を聞きながら一杯。贅沢な暮らしですが、これまで長年働いてきましたからね。**退職まで頑張った自分への、ご褒美のような家**です。



純粋な和でも洋でもない、K様オリジナルの空間を目指しました。暮らしながら、ふとした時に「良い家だな」と感じて頂ける住まいになったと思います。



### Focus on the Owner!!

赴任時にハマったという、中国茶。街に無数にある茶館で、淹れてくれるお茶とつまみをいただきながらウンチクを聞く。現地の人との関わりが楽しく、本場の茶器も買い揃えたそう。リビングにはお茶の神様・陸羽(りくう)の置物も！



すべての窓から北アルプス等の山々が望め、吹抜けに面したカウンターも開放感抜群。右手奥は幅広の建具でつながる寝室、左手は蔵書をまとめた書庫コーナー。



リビング脇のライブラリー。三畳の広さが、くつろぎの時間に丁度良い。



見る角度によって表情を変える、三灯の照明。黒のタイルの土間と一枚板のテーブルが空間を引き締める。